

主 文

本件上告を棄却する。

理 由

被告人本人の上告趣意は、事実誤認、量刑不当の主張であつて、上告適法の理由にあたらない。

弁護人畔柳桑太郎の上告趣意第一点は、単なる法令違反、事実誤認の主張であり、同第二点は、量刑不当の主張であつて（なお、原判決が、諸般の事情を慎重に考慮して、被告人を死刑に処した第一審判決を是認したのは、やむをえないものというべきである。）、いずれも上告適法の理由にあたらない。

また、記録を調べても刑訴法四一條を適用すべきものとは認められない。よつて、同法四一條、三九六条、一八一條一項但書により、裁判官全員一致の意見で、主文のとおり判決する。検察官本田正義 公判出席

昭和四四年一二月一六日

最高裁判所第三小法廷

裁判長裁判官	飯	村	義	美
裁判官	田	中	二	郎
裁判官	下	村	三	郎
裁判官	松	本	正	雄
裁判官	関	根	小	郷